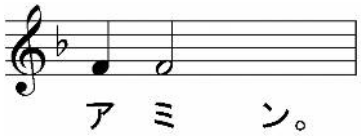
主　日　前　晩　課

第７調

注意　譜面中、五線譜上に　‖o‖　とある部分は、その音程を保ちながら、その部分の歌詞（祈禱文）が持つ言葉の自然なリズムに則って歌うことを意味しています。ただ早く歌ってしまったり、棒読みになってしまったりしないよう、氣をつけてください。この聖歌譜はそのために、歌詞の意味をとることが容易になるよう漢字を多く用いて作成しています。

２０２３年１１月　釧路管轄司祭ステファン内田　作成
２０２４年１０月１０日　一部改訂

司祭）我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、



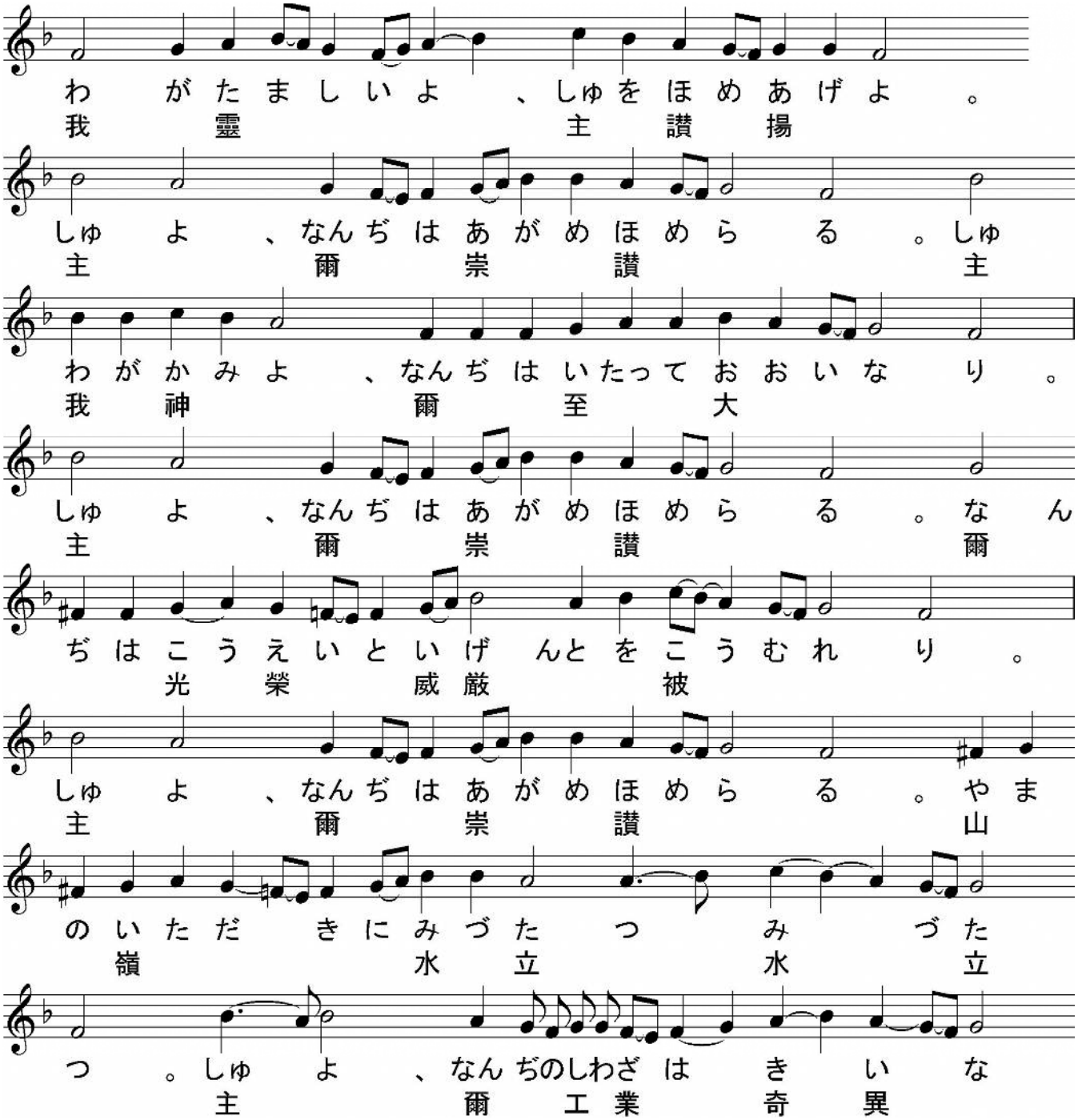
司祭）來れ、我等の王・神に叩拜せん、

來れ、ハリストス・我等の王・神に叩拜俯伏せん、

來れ、ハリストス・我等の王と神の前に叩拜俯伏せん、

來れ、彼に叩拜俯伏せん、

【　第 103 聖詠（首誦聖詠：我が靈よ主を讃め揚げよ）　】



り　。

やまのあいだにみづながる、み
山間水流水

づながる。しゅよ、なんぢのしわざはき
流主爾工業奇

いなり。
異

みなちえをもってつくれりちえ
皆智慧以作智慧

をもってつくれり。
以作

こうえいはなんぢばんぶつをつくりししゅにき
光榮爾萬物作主歸

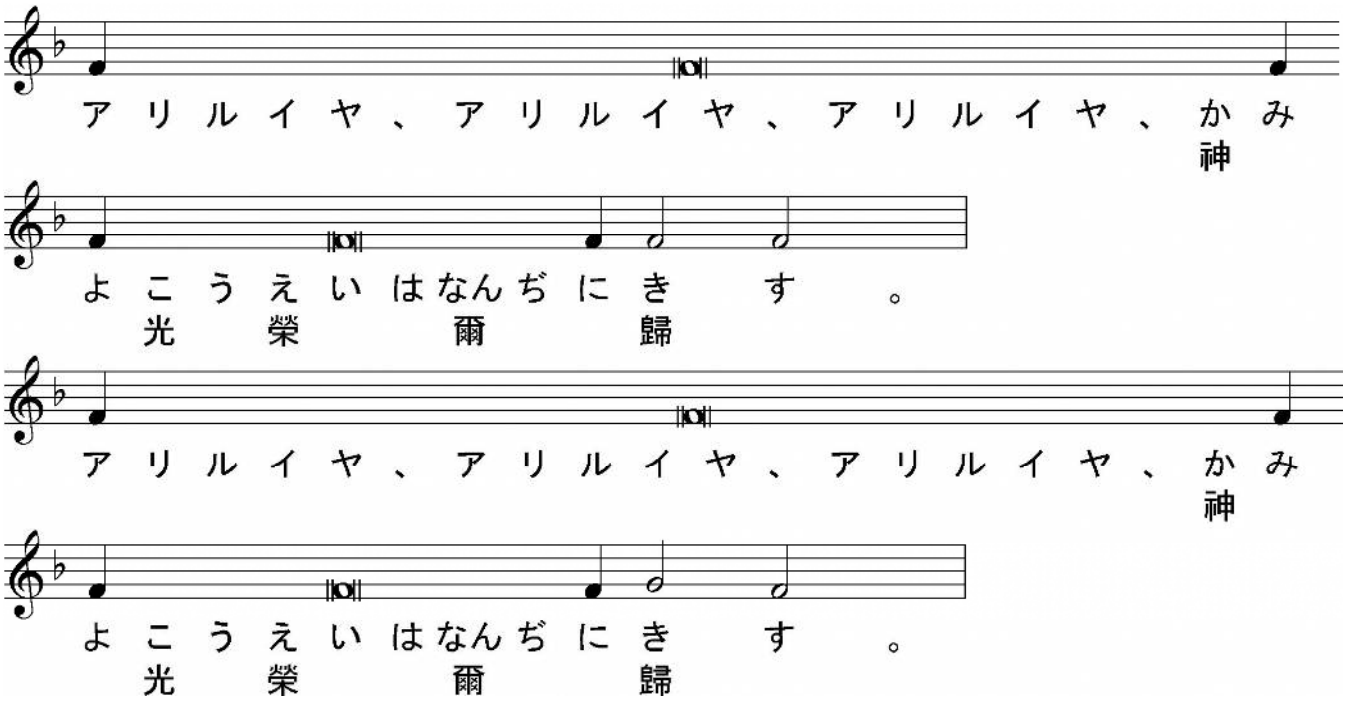
す。

こうえいはちちとことせいしんにきす、いまも
光榮父子聖神歸今

いつもよよに、アミン。
何時世世

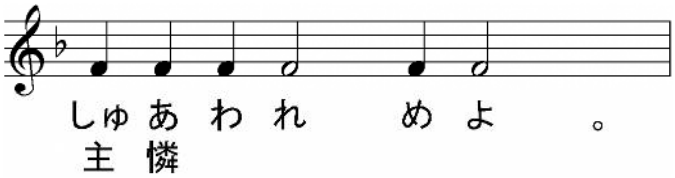
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、かみ
神

よこうえいはなんぢにきす。
光榮爾歸

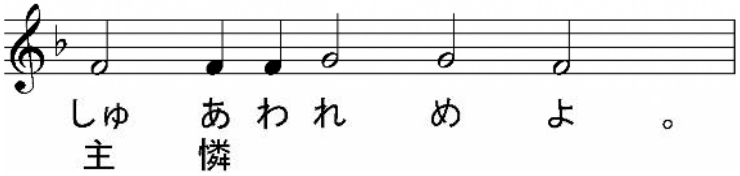


【　大聯禱　】

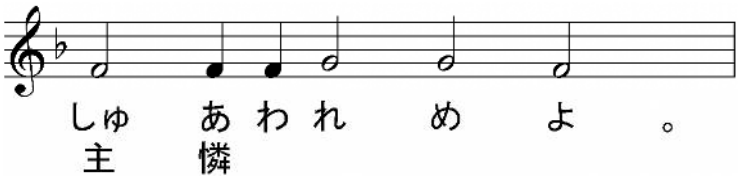
司祭）我等安和にして主に禱らん、



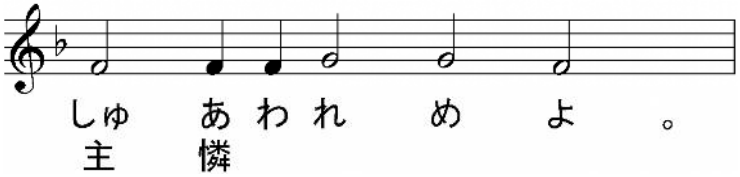
司祭）上より降る安和と我等が靈の救の爲に主に禱らん、



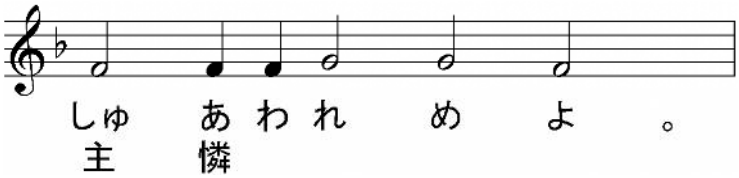
司祭）全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の爲に主に禱らん、



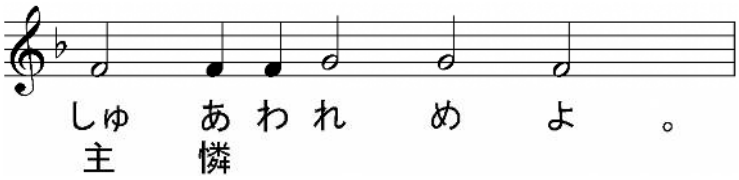
司祭）此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に來る者の爲に主に禱らん、



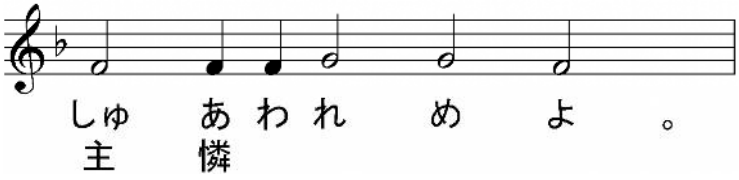
司祭）教會を司る尊貴なる我等の全日本の府主教セラフィム、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、



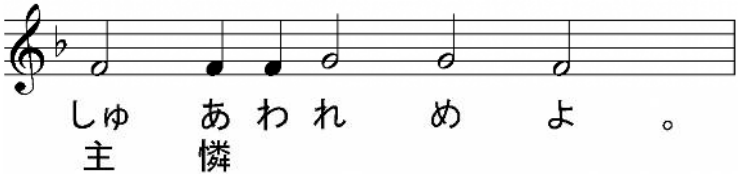
司祭) 我國の天皇、及び國を司る者の爲に主に禱らん、



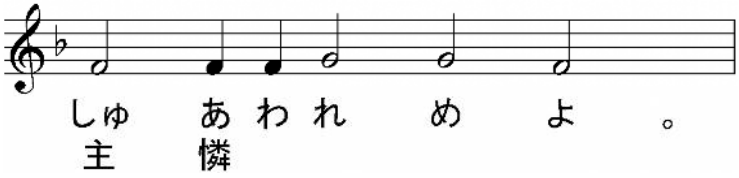
司祭) 此の都邑と凡の都邑と地方の爲、及び信を以て此の中に居る者の爲に主に禱らん、



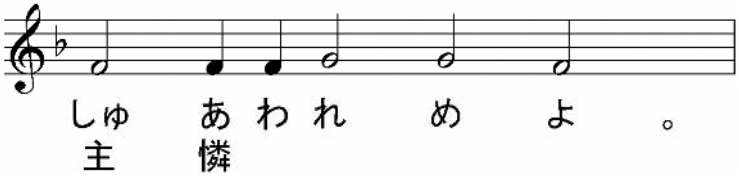
司祭) 氣候順和、五穀豐穰、天下泰平の爲に主に禱らん、



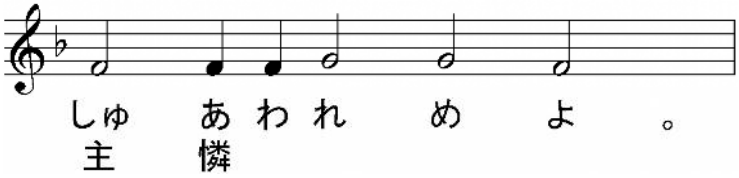
司祭) 航海する者、旅行する者、病を患うる者、艱難に遭う者、擄となりし者、及び彼等の救の爲に主に禱らん、



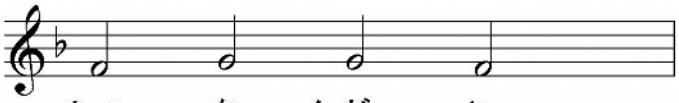
司祭) 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、



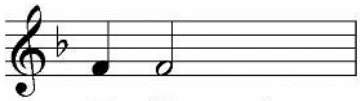
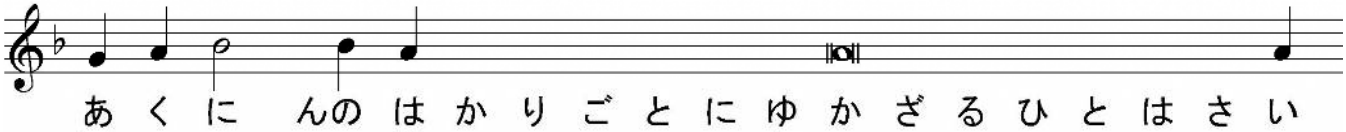
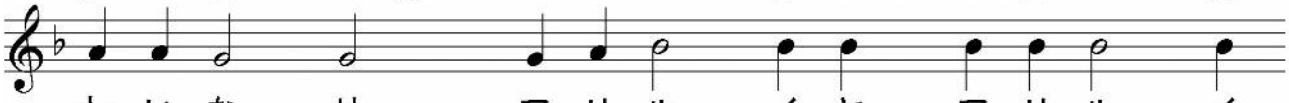
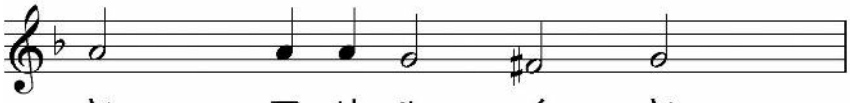
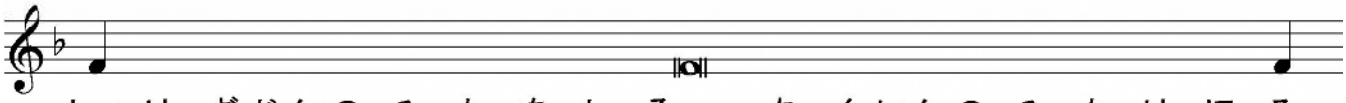
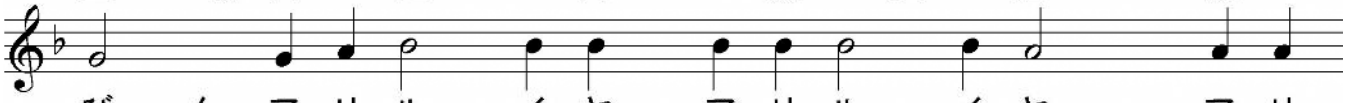
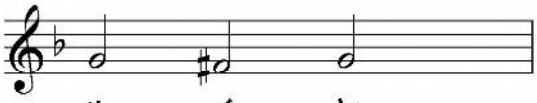
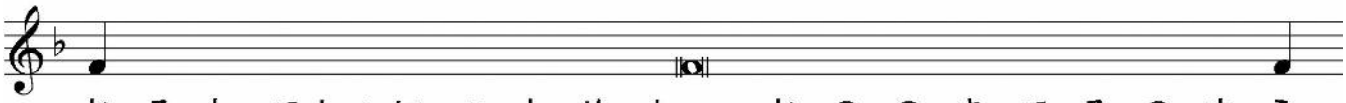
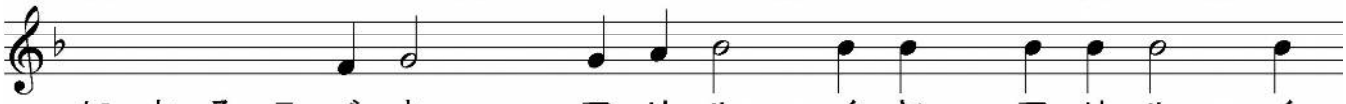
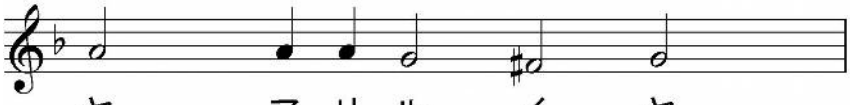
司祭) 神よ、爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ、



司祭) 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女マリヤと、諸聖人を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、



司祭) 蓋(けだし)、凡(およ)そ光榮尊貴伏拜(こうえいそんきふくはい)は爾(なんぢ)父(ちち)と子(こ)と聖神(せいしん)に歸(き)す、今(いま)も何時(いつ)も世世(よよ)に、



【 第一カフィズマ 第一段 】